

である。
 (2) 異品種の除去を行なうこと
 以上の原因を極力さけたつもりでも突然變異の如きは人為ではさげぬ問題であり其の他自然交配と言ひ他種の混入と言ひ完全にはさげ得ぬ場合があるので実際には原因をさけただけでは充分でない。
 そこで栽培されてゐる立毛について肉眼観察を行い異品種(異つた形質を持つもの)を除去することが必要となつてくる。立毛について異品種を除去するには一本植をすれば一番都合がよいのでなつて採種圃はこのために一本植の栽培を行うのである。

併し必ずしも一本植をしなくとも丁寧に観察して異つたものを全部除けばよいのであつて農家が自家採種をする場合一本植でなくともつかないものである。
 異品種を見極めるに最もよい時期が二回あるものであつてこの時に入つてし細に観察しながら異品種を切取るのである。
 (4) 出穂期 出穂期中、一、二回見廻つて一般より特に出穂の早いものや、特に出穂の遅いものは之を除去する。
 (5) 成熟期 穂が充分成熟してこれからは刈取るという直前に田に入つて一探づ、観察して芒の有無や稲の色、籾先の色や粒の形状大小、稈や穂の長短等の異つたものを除去する。
 以上の方法で品種の純度というものは何十年でも保つて行き得るものであるから自家採種を行なう場合もこの様にすれば試験場からの原種や採種圃のものにたよる必要はないことになる。

時計ミデンキの
 御用は勉強の當店へ

大和時計店

はミシンの
 秀な一生を幸福にいたします

多敷取そろへて御座居ます!

ナショナルラジオ
 蛇の目ミシン
 グラマーミシン

○我輩はかい虫である!

我輩は一日約一〇万個の卵を産み一グラムの便の中に平均五千個づつの一週間を送り出している。どうだ驚いたろう。
 夏で一週間多は二〜三週間たつと卵の中で幼虫となり、いつでも人間の体に入る体制をとる。人間の体に入ると腸で産声を擧げ腸の壁を咬みやぶつて血管に入るか又は横隔膜を破るかして、肺に行き肺の中で一定の生育をするそして肺から気管、食道、胃を経て元の古巢の腸に戻る。
 頭末我輩には細くて狭い穴が大好きと云う變な癖があつて、虫垂(盲腸)や膽道は我輩の最も好んで入る場所だ。
 時々胃や鼻の穴の方まで散歩する。此等の場所に我輩が行くと、平素生物界に於て最も傲慢な態度をとつて人間共がトタンに七轉八倒の大苦しみだ。思つたよりも胸の溜飲が下るよ、全くこのナリルと優越感を我輩は時々味わうようにしている。
 我輩の卵は非常に強く出来ている。夏季で三ヶ月冬の氣候だと一年は生きていられ、攝氏零下一度の所でも平氣、七十%のアルコールの中でも四日間は大丈夫、二〇%のサラン粉でも一日は保たれ、五分の食塩水で五晝夜、食酢、醬油では七晝夜、野菜の液の中では一日以上は確実に生きてゐるが熱は苦手だ。
 七度の湯の中では一秒五度の熱で一五〜一六分、直射日光では二日で參つてしまふ。
 おつとこれは内緒だよ。我輩を追い出そうと人間共はあの手この手を使つてゐるが此の頃では海人草やサントニンでは滅多に參らなから近頃ヘキシルレゾルシンとかいうやゝこしい薬にはほとほと困つてゐる。
 この手を使われると我輩はもとより卵まで殺されてしまふらしいくわばら。

歌 壇

朝 掃 除

柳 靜 永

○佛前に供えてあるや初トマト
 ○佛前に今日初もぎのトマトかな
 ○初もぎのトマト佛に供へけり
 ○初茄子をもぎて神に供へけり
 出舎の百姓は未だ純朴です。初ものは必ず佛前神前に供えるものとしていふその美しい心の最もよく表現されてゐるのとはどの句でしよう。佛に供へてとことわらなくても上げてあることがわかればよい特に第二句は「今日初もぎの」と時間まではつきり入れてしかも供へるといふ余計な女句を省いています他の三句を断然抜いてひきしまつた佳句であります。

○暑き日の續きてトマト熟れにけり
 ○道端のトマトにはこりかゝり居り
 ○どの店も山と積まれしトマトかな
 三句とも馴れた詠み振りで第二句最もすくれています但し原句は、「ほこりかゝりけり」ですが「かゝり居り」としました。

○鈴なりのトマト見とれて立ちにけり
 ○鈴なりのトマト笑顔で眺めけり
 どちらがいでしよう。笑顔で眺めている方が鈴なりのトマトに見とれてゐる情景がよく現われそれを「笑顔」という二字に含ませた点後句の方がよろしい。

○朝露に濡れて色よきトマトかな
 ○朝露に濡れてトマトをもぎにけり
 前句はトマトが朝露にぬれていすすし後句は作者がぬれていすす。前句優秀

○大トマト小ざるに入れてありにけり
 『大』と『小』の文字の使い分け、すなはち技巧句です。若い人の作句態度ではありません。

○ゴ敵を呼んで新茶を入れにけり
 これも古臭い句です。

○色もよく香りも高き新茶かな
 月並句といわれたいすす

○珍客に新茶奨めて語りけり
 これも余程考へた句でしょうが月並に陥ちていすす。

○湯加減も吟味で新茶入れにけり
 洗練された句はさすがに違ひますこれではなくてはなりませぬ。湯かげんまで注意するあたり新茶は大いに喜んでよい香りも味をありつけ出すことでしょう。 優秀句

○十七夜新茶を買つて歸りけり
 ○手土産は母が好み新茶かな
 苦勞のない句です嫌味もなくよいです。

○茶だんすに古茶の残りてありにけり
 苦吟した感じがわかります茶だんすと古茶の取合せがびつたりしてゐます。

○追は飛ち又来て止る五月ハエ
 だから五月ハエと書いて『うるさ』と讀みます。ごもつともです。

○馬ハエの時折り障子を叩きけり
 馬あぶと言いたところ、然しよくこの情景を捉えました但し「障子を」の「を」は不要です。

○朝掃除してハエ取りを替ひにけり
 ハエの題の昨年も出した様でしたが難題とみえて、句がありません。

今回は三句しか探りませんが朝掃除の句は絶賛に値しますよくこの句が詠みこなせたものと感心しました。兎角題に捉われすぎるのが初歩の人の常ですハエ、ハエ、ハエとハエのことばかり考へるからうまく出てこないのです。すなはちハエに負けてしまつたのです。

そこへ行くこと此の句はよくハエを牛耳つていすす。しかも朝掃除をすませてハエ取りを替へた後せい／＼とした気分が仕事にむかわれるであらう。

主婦の美しい家庭生活の一端がうかがわれて実に氣持のよい句です。

今月の塵卷でした。

以 上